

Individual and organizational factors affecting ethical behavior among hospital nurses

村井, 孝子

<https://hdl.handle.net/2324/4474991>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	村井 孝子					
論文名	Individual and organizational factors affecting ethical behavior among hospital nurses (病院看護師の倫理的行動に影響する個人要因・組織要因)					
論文調査委員	主査	九州大学	教授	橋口	暢子	
	副査	九州大学	教授	鳩野	洋子	
	副査	九州大学	教授	諸隈	誠一	

論文審査の結果の要旨

医療の高度化、複雑化が進む臨床現場では、様々な倫理的問題が存在しており、看護師には、患者の人権を尊重し権利を擁護する、安全を確保する、意思決定を支えることが求められる。また、倫理行動には、個人と組織の相互作用の関連が示唆されるが、それらの関連については明らかになっていない。本研究の目的は、病院看護師の個人要因、組織要因の相互作用および各要因の倫理的行動への影響を明らかにすることである。

全国の21病院に勤務する看護師を対象に、無記名の自記式質問紙調査を行った。道徳的感受性、Locus of Control (LOC) などの個人要因、倫理教育など組織での取り組みなどの組織風土の要因を看護師の倫理的行動に影響する要因とした概念枠組みを作成し、構造方程式モデリングを用い検証した。また組織風土のタイプ別に多母集団同時分析を行い、比較を行った。質問紙は、1,048名に配布され、535名から回答が得られ(回収率51.0%)、そのうち517名を分析対象とした(有効回答49.3%)。看護師の倫理的行動に影響している個人要因は、LOCと道徳的感受性であり、職位はLOCと道徳的感受性を介して影響していた。組織要因では、組織環境のよい風土が看護師の倫理的行動に影響しており、病床規模や経営母体、病院内の倫理研修や倫理カンファレンスは影響していなかった。また個人要因、組織要因間の相互の影響も認められなかった。多母集団同時分析の結果、全てのタイプの組織で、道徳的感受性は「善いケア」に影響していた。加えて、強制・命令的な雰囲気少なく集団凝集性の高い組織では、院内の倫理研修が道徳的感受性に影響していることが示され、看護師の倫理的行動に影響する要因には組織風土のタイプごとに違いがあることが明らかになった。本研究結果は、看護師の倫理行動力を強化するための示唆として、看護師教育、看護管理上有効な知見となり得ると考えらえる。

予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても概ね適切な回答を得た。よって本論文は予備調査委員合議の上、博士(看護学)の学位に値する論文として価値あるものと認める。

主査 橋口 暢子
副査 鳩野 洋子
副査 諸隈 誠一